

現行推進プランの集約と次期推進プランへの反映事項

項目	人権教育に関するアンケートの結果から見える (現行) 推進プランの成果 (○) と課題 (●)	協議会委員からのご意見	(次期) 推進プランへの反映項目 (案)
(1) 就学前教育の取組 ◆教育・保育内容の充実 ◆保育士・幼稚園教員・保育教諭等の研修の充実 ◆親育ち・子育て支援の充実		自尊感情の育成 ・継続的に幼少期から、発達段階に応じた教育活動が必要。 ・自尊感情を育むために、先生と子どもとの愛着関係を築いていくことが大切である。	・自尊感情の育成 ・先生と子どもの愛着・信頼関係の構築(受容的・応答的な関わり) ・発達段階に応じた教育活動
(2) 小学校以降の学校教育の取組 ◆学校教育活動全体を通じた人権教育の推進	○教育活動全体を通じた人権教育に取り組む学校が増加した ・「教育活動全体を通じた人権教育の推進」に関するほぼ全ての設問で、肯定的な回答が増加している。(学校 問 1～11) ・自尊感情等に関わる項目では、概ね肯定的な回答が増えている。(児童生徒) 自分には良いところがあると思いますか(肯定的な回答) 小学生 H28: 82.6% → R5: 82.5% 中学生 H28: 73.7% → R5: 81.6% 高校生 H28: 76.3% → R5: 83.1% 自分のことが好きですか(肯定的な回答) 小学生 H28: 72.2% → R5: 69.8% 中学生 H28: 57.1% → R5: 65.3% 高校生 H28: 57.6% → R5: 68.4% ●学校の先生と子どもの信頼関係を築く取組が必要 ・学校の先生から大切にされていると感じている子どもは、30%～40%である。(児童生徒) 「周りの人から自分が大切にされていると思いますか」の質問において「思う」「まあそう思う」を選んだ人に「あなたを大切にしてくれていると思う人はどんな人ですか」を問い「学校の先生」と回答した割合 小学生 37.2% 中学生 33.2% 高校生 26.8%	信頼関係の構築 ・子どもが先生に相談できる関係性を育むことで学校の中に人権について考えたり、学びを深めたりする風土の下地ができる。それで人権意識が高まるのではないかと。 ・一人一人の違いを認め、大切にしていこうという関わりを持つことが重要。 ・教員が子どもとの信頼関係を築いていくために、子どもの話をじっくり聞くことが必要。 ・先生は子どもに対して、具体的にはめることが重要。(○○さんの○○なところが工夫されているね。どんなふうにしたの?) ・先生たちが無意識にとっている行動等が子どもたちに影響していることもある。先生と子どもたちの信頼関係が築ける取組が必要。 いじめ ・命の大切さや被害者の方々の考えなどを知ってもらう取組が必要。	・自尊感情の育成 ・先生と子どもの信頼関係の構築 ・良さや違いを認め合い、支え合える人間関係の構築
◆教育内容の創造	○いじめ防止や情報モラルの学習に取り組む学校が増加し子どもの理解が進んだ ・ほぼ全員の生徒がいじめをいけないと思っている。(高校生 問10) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(思う、どちらかと言えば思うと回答) 高校生 H28: 94.7% → R5: 96.7% ・多くの子どもは、いじめや差別を見たときに、相談も含め何か行動すると答えている。(児童生徒) いじめをしている場面を見た時、どんな行動をしますか (「注意する」「先生に相談する」「家族に相談する」「友達に相談する」と回答した割合) 小学生 H28: 91.5% → R5: 93.4% 中学生 H28: 79.1% → R5: 88.7% 高校生 H28: 77.7% → R5: 87% ●いじめやネット問題の防止や解決に向けた実践力を育むための子ども主体の取組の充実が必要 ・「インターネット接続機器の使用やルール」に関して、情報モラルの取組については一定実施できている回答が多いが、児童会や生徒会が中心となった取組については、行っているとの回答が1割程度である。(学校 問33) 児童生徒がインターネット接続機器を安全に使用し、事件やトラブルを防ぐために、どのような取組を行っていますか。(全学校種) 「情報モラル教育の推進」 89.5% 「児童会や生徒会が中心となって、安全にインターネットを利用するためのルールづくりを行う」 19.9% ・いじめや差別を見たときに、小学生で5%、中学生で7%、高校生で9%の子どもは、何もしないと答えている。(児童生徒) ・何もしないと回答した生徒のうち、いじめや差別を見ても関わりたくないと思っている生徒が半数いる。(中学生 問11、12)(高校生 問12) いじめや差別をしている場面を見た時、「何もしない」と答えた人のうち、理由として「関わりたくない(中高)」と回答した割合 中学生 51.6% 高校生 58.7% ●人権課題の正しい判断につながる計画的・効果的な人権学習の実施 ・人権課題に関する学習については、学校の「指導している」という認識と児童生徒の「学習した」という認識には大きな差がある。 ・個別の人権課題によって、子どもの認識には差が大きく、特に「同和問題」と「HIV感染者・エイズ患者の人権」の項目では、正しく認識できる回答は、約半数である。 Aさんから、「○○町に住んでいる人とは、かかわらないほうがいいよ」と言われたときどうしますか (「そう思わないので、そう伝える」「そう思わないが、何も言わない」と回答した割合) 小学生 53.6% 中学生 45.9% 高校生 47.6% あなたのまわりに、HIV感染者(エイズ患者)やハンセン病回復者の人を避けようとする人がいました、どうしますか (「避ける必要はないと思うので、そう伝える」「避ける必要はないが、何も言わない」と回答した割合) 中学生 55.4% 高校生 56.5% ※小学生は質問なし	人権学習の充実 ・知識だけでなく、自ら行動できる児童生徒を育てることが大切。 ・課題に対して自ら主体的に学びたいと思える題材を設定し、どのように学んでいくかを大切にしていける必要がある。 ・互いに意見をしっかりと聞き合い、自分の気持ちと重ねる作業を通して課題を掘り下げ、自分なりの答えを持てるようにすることが大切。 ・キャリア教育や個々のテーマを見つけて課題解決を行っていく探究学習の充実が必要。 ・子どもたちと先生たちが協働できるような取組が形成されていくと非常に効果的であり、それぞれの校種で発達段階に即した教育活動が必要。 ・子どもたちと先生が協働的な学びが出来るような取組が重要である。 ・周りの人にSOSを出せる(言える)力をつけていくことが必要 いじめ ・いじめの学習は低学年からプログラムとして位置づけ、教えこむ授業ではなく、子どもたちと一緒に考えながら解決をしていくことが必要。 ・いじめを見て、「何もしない人」に、止める側、気かけ声をかける側に立つような指導を行うことが必要。 ネット問題 ・インターネットの危険性も日々変化をしている。正しい認識をもって、子どもたちや家庭に伝えていっていただきたい。 ・インターネットに関する人権教育やリテラシー教育に関しても、悪い面や危険性ばかりではなく、インターネットや生成AIの持つ能力への驚きや感動を伝えてほしい。	・人権学習の進め方 ・いじめの未然防止に向けた人権学習プログラム ・情報モラル教育(自律的なネット活用能力) ・SOSを出せる力の育成

<p>◆教職員研修の充実</p>	<p>●教職員の人権感覚と教育実践力を高める研修の充実 教科等と人権課題の関連を確認する校内研修の実施と併せて、教科等の授業研究においても、人権教育の視点が含まれていることを確認する等、共通認識を図り、授業研究の充実を図っていく必要がある。 ・「教職員研修の充実」に関して、特別支援教育の視点での研修は行われているが、同和問題をはじめとする個別の人権課題についての研修は十分ではない。(学校 問24、25)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">同和問題をはじめとする個別の人権課題についての学習の充実に向けた研修を行っていますか 全学校種 84.0%</p> <p>・人権学習を進めるうえで課題となっていることの上位は、「授業研究等の実施」「教科・領域の時間においての人権学習の実施」「組織的な推進」である。(学校 問18)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">人権学習を進めるうえで課題となっていることは何ですか(全学校種) 「授業研究等の実施」29.5% 「教科・領域の時間においての人権学習の実施」28.9% 「組織的な推進」28.0%</p>	<p>いじめ ・大人のいじめについての知識・意識が不十分であると思われるので、大人に対する取組も必要。</p> <p>教員の質の向上 ・授業研究等では、子どもへの関わり方や言葉がけを先生どうして認め合い、先生としての質を上げていくことが大切。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の質の向上 ・教職員研修の充実 ・各教科と関連させた、授業研究の充実 ・身近な11の人権課題などに関する校内研修の実施
<p>◆組織的・継続的な取組とその点検・評価</p>	<p>○多くの学校で組織的な人権教育推進のための仕組み作りが行われている ・「人権教育目標の設定、計画的・系統的な人権教育全体計画・年間指導計画の作成、計画に基づいた取組、PDCAサイクルに沿った検証・改善」については、9割程の回答が肯定的である。(学校 問27)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">「人権教育目標の設定、計画的・系統的な人権教育全体計画・年間指導計画を作成し、計画に基づいた取組を行い、PDCAサイクルに沿って検証・改善を進めているか」(肯定的な回答) 全学校種 95.8%</p>	<p>組織的な取組 ・園や学校で、教職員が連携をし、組織として取り組んでいくことが大切。 ・SCやSSWに相談しやすい環境づくりが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の組織的な取組 ・SC、SSWの活用
<p>(3) 社会教育の取組</p> <p>◆家庭教育における人権教育・啓発の推進</p> <p>◆ライフステージに応じた学習機会の提供・充実</p> <p>◆指導者等の養成</p> <p>◆人権学習プログラムの開発、教材の整備</p>	<p>○適正なインターネット利用に関するルールづくりが進んでいる ・学校からの積極的な呼びかけにより、保護者が児童と話し合ってルールづくりをしやすい状況ができていると考えられる。 ・インターネット接続機器を安全に使用するための取組としては、「情報モラル教育の推進」の割合が最も高く、また、小学校・中学校は、児童会・生徒会、PTAや各家庭でのルールづくりを行う取組が増加しており、保護者が児童生徒と話し合ってネットのルールを決めている割合の増加に影響している。</p> <p>●子どもの自尊感情を育む親子の関係づくりが必要 ・家庭のなかでの親子のコミュニケーションについて、保護者のうち8割程度は肯定的な回答をしているが、「周りの人から大切にされていると思う」と回答した児童生徒のうち「親から大切にされている」と思う児童生徒の割合は、前回調査より減少している。児童生徒が、自分が大切にされていると感じられるような親子の関係づくりや親の関わり方について、学校や地域における働きかけが必要である。 ・家庭のなかでの親子のコミュニケーションについて、8割程度が肯定的である。(保護者 問1～4)</p> <p>●家庭と学校が共に子どもの人権意識を育むための働きかけの充実が必要 ・「社会教育での人権教育・啓発」に関して、人権参観日などに参加していると思われる保護者は3割程度であり、人権学習を進めるうえで、「家庭や地域への人権啓発」を課題と捉えている学校の割合が多い。 ・人権教育の内容や、啓発、教育活動への参加促進については、否定的な回答または、「わからない」という回答の割合が変わらず高い。 ・市町村が主催する人権に関する研修等に参加していると思われる保護者は非常に少ない。今後、保護者への情報発信の充実が求められる。 ・学校行事等への積極的な参加について肯定的な回答をした保護者は8割程度である。(保護者 問5)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">授業参観や運動会などの学校行事には積極的に参加していると思いますか (肯定的な回答) 全学校種 86.6%</p> <p>・「学校の人権教育の取組」に関して、否定的回答と「わからない」という回答を合わせて4割強となっており、学校の取組が家庭に十分に伝わっていない。(保護者 問10～16)</p>	<p>自尊感情の育成 ・先生や保護者も自尊感情が低い人が増えているので、これに対する取組が必要。</p> <p>保護者等への発信 ・人権教育の発信について、学校、家庭、地域をつなぐ連絡システムなどを取り入れて、SNS等でつながっていくというのも有効的な手段ではないだろうか。</p> <p>ネット問題 ・インターネットの利用について、人権教育と結びつけて、家庭内で親子が話をすることに力をいれていくとよいのでは。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情の育成 ・親子のコミュニケーション(受容的・応答的な関わり) ・保護者への啓発(人権教育参観日等の充実) ・保護者への取組の発信(啓発) ・情報モラル教育(自律的なネット活用能力)の発信(啓発) ・PTA・教育行政研修会の活用
<p>(4) 就学前教育、学校教育、社会教育の連携・協働</p>	<p>●家庭・地域・学校の連携の充実が必要 ・「学校教育活動全体を通じた人権教育の推進」に関して、「人権教育を推進するために、学校、家庭、地域それぞれが連携できている」という回答は8割程度である。(学校 問30)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">学校の取組が家庭や地域に見えるように情報を発信し、学校、家庭、地域それぞれが連携しながら人権教育を推進する体制を確立していますか(肯定的な回答) 全学校種 82.9%</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域の連携、協働
<p>(5) 関係機関・NPO等との連携</p>		<p>関係機関との連携 ・多様な人材が活躍できる社会づくりが求められる。外国の方と共存していくという認識を持つために、教委の事業と連携をしていくことが大切である。 ・外国にルーツを持つ子どもや保護者が増えてくるので、支援についても考えていくことが必要。 ・教委と連携し、県警が行っている事業についても周知をしていきたい。 ・外部組織や専門機関と連携し、具体的場面に即して考える機会を子ども、保護者や地域に提供していくことが重要。また、専門家から提案してもらった取組例を取り入れていくことが重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携